

◆ 2022 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：氷川の杜まちづくり協議会

25A-37

代表者：会長 小峯 政昭

URL :

1. 活動が必要とされた状況

氷川参道は、さいたま市の歴史・文化的資産であり、都心部に残された貴重な緑の空間と言えます。しかし、通行人による並木敷きへの立入りにより、根回りが踏み固められ樹木が傷んできているのが現状です。

さいたま市の財産である氷川参道を、緑豊かな歩行者中心のシンボル軸として将来にわたり引継ぐため、今ある樹木を保全し、また、新たな“みどり”を創出することを目的として、平成22年から、並木敷きへ中低木の植栽を行い、通行人の立入りを防ぐ活動をしてきました。今後は、並木保全や植栽生育のために土壌の保全は重要であることから、必要な養分を補うために、協議会員による定期的な追肥を行う必要があります。



2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

神社、協議会、市の三者協働により事業を実施、初夏に草刈りや剪定、冬には近隣企業や住民も加わり、落葉清掃を行いました。主な活動は以下のとおりです。

〈実施区間〉氷川参道両側並木敷

〈実施時期〉（草刈り・剪定）7月27日、29日、9月26日、27日
（落葉清掃）12月3日

〈参加者〉（草刈り・剪定）延べ30名
（落葉清掃）146名



3. 活動の成果

これまでの参道の並木敷きへの植栽により、立ち入りの防止と景観の向上という成果が達成されました。

令和3年には、参道の一部区間が歩行者専用化に合わせて石畳舗装に変わりました。

参道の歩行者も整備以前に比べて2倍以上に増え、来訪者に参道の緑を楽しんでもらえるようになり、大宮のシンボルにふさわしい空間になりつつあります。

また、今年度から落ち葉清掃を協議会員だけでなく、近隣住民や企業から広く募集したところ、休日にもかかわらず146名の参加がありました。

参道のこれまでの取り組みが認知されはじめ、参道の価値や都市部の中の貴重な緑を守り、将来に引き継ぐという意識の現れだと思えます。

4. 今後に残された課題

これまでの活動によって、すべての植栽が完了し、並木敷きへの立ち入りや景観向上の成果を上げています。一方で、これまで植栽した中低木の枯損や生育不良が目立つ区間もあり、補植や施肥を行うなど並木敷きの継続した維持管理が課題となっています。今後も当協議会では、良好な氷川参道の並木敷きの維持のため、活動を継続していく予定です。